

途上国の生活排水処理問題解決に日本の技術

横浜の脱水機メーカーと JICA が連携

フィリピン国セブ市で屎尿汚泥の脱水処理を実施

世界有数のリゾートとして名高いフィリピンのセブ島。しかし、その中心都市であるセブ市は、十分な下水道が整備されていないため、多くの家庭では下水用浄化槽を設置し、定期的にタンクから屎尿汚泥を回収していますが、その汚泥の多くは適切な処理がなされないまま投棄されています。こうした同市の生活排水処理を改善するべく、国際協力機構（JICA）は1月15日、横浜市のアムコン株式会社（佐々木昌一社長）と業務委託契約を交わしました。フィリピン国セブ市において、同社が独自開発した汚泥脱水機を活用して屎尿汚泥の脱水処理を行う他、汚泥の適切な管理・処理に必要な体制づくり等を支援します。



左)アムコン(株)製の汚泥脱水装置「ヴァールト脱水機」

右)提案製品をセブ市長へ説明をしている様子

今回の事業では、アムコン(株)が独自開発した汚泥脱水装置「ヴァールト脱水機」を活用し、セブ市で1日に発生する屎尿汚泥のほぼ全てを脱水処理します。有害な成分を取り除くのが特徴で、脱水後の水はそのまま川に放流可能です。また、脱水後の固形分（脱水ケーキ）は堆肥として有効活用します。ヴァールト脱水機は目詰まりが少ないのが特徴で、自動運転により運転コストや維持管理コストが低く抑えられ、また維持管理が容易であるという強みを持ちます。このような製品の強みを活かし、セブ市が自力で汚泥の適切な管理・処理が出来るような仕組み・体制を作るための支援も実施します。

この取り組みは、我が国の中小企業を対象に、JICA が本年度より開始した「民間提案型普及・実証事業」として実施されるものです。この事業は、我が国の中小企業などの製品・技術が途上国の開発に有効であることを実証するとともに、その現地での適合性を高め、普及を図ることを目的とするものです。